令和4年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4572000687		
法人名	特定非営利活動法人　敬愛		
事業所名	グループホーム　なごやか		
所在地	宮崎県児湯郡高鍋町上江1940番地2		
自己評価作成日	令和4年9月9日	評価結果市町村受理日	令和４年１１月２４日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_pref_topjigyosyo_index=true

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町２番２２号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	令和４年１０月１３日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「いっしょに暮らす、いっしょに語る、いっしょに笑う、ここ（地域）でいっしょに暮らそう」という理念をもとにご利用者の心に寄り添い、いつもの一緒に過ごし、ご利用者も職員も明るく笑いの絶えないホームです。コロナウィルス感染症の為、なかなか外出ができない中で、変わらず楽しく過ごしていただけるように、その時期にあったイベントや外出を考え、ご利用者と共に楽しんでいます。楽しみの一つでもある食事も面でも季節感を感じてもらえるように使用する食材、味や食事の形態を工夫しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

ホームで掲げた理念に沿うようにスタッフが明るく利用者に接し、利用者を支えながら利用者自身が自分でできることを進んでやるように取り組まれている。また、普段から語り掛けや笑顔を絶やさないようスタッフが意識してアットホームな雰囲気づくりを心がけている。食事や行事でも利用者の思いに応えられるように工夫し、特に今年は利用者から出た「初日の出を見たい」という声を受け、スタッフ間で話し合い実現させることもあった。 なお、通学中の地域の児童・生徒との挨拶交流も見られている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「いっしょに暮らす。いっしょに語る。いっしょに笑う。ここ（地域）でいっしょに暮らそう。」と表し、いつでも見れる様にホーム内に掲げ、職員の実践の指針となっている。	理念はわかりやすく職員間に浸透しており、職員は理念に沿うように意識して明るく笑顔の絶えない実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月地域のボランティアの方の読み聞かせ等の協力を頂いていたが、コロナウィルス感染症の影響で交流できていない。	コロナ禍にあって、以前、できていた地域との交流はできていない。職員が地域の一斉清掃に参加したり、地域の回覧板を利用者にも回覧するようなことから始めたい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通してではあるが、理解を得られる様に取り組んでいる。オレンジカフェへも参加予定しているが現状では参加できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホーム内の様子や取り組みの報告をし、対応の仕方等、その場で出た意見、要望については持ち帰り、ﾐｰﾃｨﾝｸﾞで検討したが、現在はコロナウィルス感染症の為、会議が出来ない状態が続いており書面上の報告になっている。	地域の民生委員や自治会長のほか役場や地域包括支援センターなどの参加があり、報告事項に多くの質疑が出ていたが、現在は、文書による報告が主になっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から、役場の担当者や地域包括支援センターとの方へ困りごとがある時には、相談もでき助言を頂き、より良い協力関係を築けるように取り組んでいる。	役場や地域包括支援センターとは日頃から連絡を取り合い、必要な助言を得ている。最近でも、入院された利用者の退所後の対応について、地域包括支援センターと適切に連携して決着した事例がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が拘束について理解しており、拘束しない対応を工夫したり、ケアの仕方を職員同士でお互いに見直しながら行っている。玄関等の施錠は、夜間の戸締りの時のみとしている。	コロナ禍以前は外部の研修に参加していたが、現在は年2回内部での研修を実施している。インターネットからの資料を活用し、身体拘束をしないケアに向けて職員間で話し合い、実践につなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	ﾐｰﾃｨﾝｸﾞ等で話し合い、言葉の虐待も含め、日頃から注意を払っている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	在宅での独居高齢者、入院からの在宅生活困難になり入所に至る高齢者が増えている。必要であれば活用していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は説明し、理解、納得を頂いている。また介護保険改定や内容変更等は、必ずホーム側からも案内を行って変更部分を説明している。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が面会に来られた時は、またはお電話等で要望、意見等がないか声掛けさせていただき、要望や意見がでた際はその内容はﾐｰﾃｨﾝｸﾞにて報告、検討し情報の共有を行っている。	家族等からはコロナ禍での外出や面会について意見・要望が多く聞かれ、職員間で情報共有しながら対応を検討している。具体的には、電話やお便りを活用して理解を得るように努めている。、	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度のﾐｰﾃｨﾝｸﾞにて、職員からの意見、提案を聞く時間を設けており、検討している。また、日頃からも声掛けを行い意見を聞ける体制をとっている。	必要に応じて面談の機会を設けており、職員の意見・要望を受けて休憩時間を設定するなど具体的な改善につながった事例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人の知識や能力を給与に反映できるようにしている。また、職員が働きやすいように勤務表の作成時も職員の希望を取り入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人のケアについての力量は把握している。出来る限り、外部の研修への参加ができるように配慮しているがなかなか参加することが出来ていない。。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会には加入している。勉強会や交流会への参加はコロナウィルス感染予防のため中止になっており、参加できていない。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居するしない関係なく、見学、相談等や事前調査などで、お話しをさせていただくことで、ご本人の不安や要望を把握できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人と同じく、ご家族にもお話を伺い、抱えている不安や悩み事や要望を把握できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学や相談時、聞き取りを行う中で、必要なサービスを共に考え主治医、PT等に助言をもらい適した支えができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活において協働・共同し、できることは自分でやっていただけるよう声かけ誘導を行い、利用者が、楽しく、暮らしやすい関係を築いている。。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一方的な立場ではなく、お互いの関係で支援する方向性を持つようにしている。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	契約終了後も電話での交流があり、相談などの支援に努めている。	コロナ禍で外出や面会が限られており、以前のような馴染みの人や場との関係継続は難しくなっているが、電話や手紙での交流支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が交流を図れるように、職員が間に入り、会話を取り次ぎ、誰かが孤立しないように介入し、関わりを持てる様支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や転所時は訪問したり、家族が遠方の場合は家族に代わってできることは代行したり、ケアマネを通して情報収集し、連携が取れる様にしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者、家族からの聞き取りをはじめ、日々の様子や会話などから情報も把握できるように申し送りやﾐｰﾃｨﾝｸﾞにて検討している。	普段から声掛けを多くし、一人ひとりの思いや意向を把握することに努めており、利用者の希望に沿って季節がわかる料理を提供したり、花見に出かけたりしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前、入所時の聞き取りはもちろん、その後の関わりの中で知り得た情報も職員全員で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察、記録、申し送り、ﾐｰﾃｨﾝｸﾞ等を通して現状の把握に努めている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度のﾐｰﾃｨﾝｸﾞにて一人一人の課題とそのケアについて検討し、ケアプランに反映している。また、家族にも意向を聞き、ケアプランに反映させている。	モニタリングは月１回実施し、ミーティングで課題とケアのあり方を検討してケアプランに反映させている。プランの見直しに当たっては家族や利用者の意見や要望をできるだけ取り入れるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人一人の日々の変化、気付き等を記録し、その情報を職員全員で共有し、ケアプランの見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアプランにだけにとらわれず、その状況に応じ、その時、必要なケアができるように柔軟な支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的にボランティアの訪問をいただいていたが、コロナウィルス感染症の為、中止している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に訪問診療を受けることができている。家族の受診時はホームでの様子、身体状況など文書や電話にて主治医に報告している。	利用者全員が月2回訪問診療とコロナ禍でも夜間受診が可能な協力医をかかりつけ医としている。家族同伴での受診では介護記録やバイタルを提供し専門医を必要とする場合職員も同伴するなど適切な医療が受けられる支援に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が中心となって必要な状況を共有し、適切に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、病院関係者と連絡を取り合い情報提供、共有を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時やケアプランについての面談時等に家族等にその意向についてお聞きしている。また、ミーティング時に情報を共有し、検討している。	令和2年、主治医、訪問看護、職員の協力体制を構築し重度化や終末期に向けた支援を明文化している。入居時に又、状況の変化時に事業所で出来ることできないこと、家族の意向を含め方針を説明、それらを共有している。利用者の状況に沿った支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応については、ﾐｰﾃｨﾝｸﾞ時に検討している。実践的な訓練は定期的にはできていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練に取り組んでいるが、地域住民と協力しての定期的な訓練には至っていない。	感染対策のもと、年2回の防災訓練を行っている。コロナ禍での災害訓練は住民との連携が、困難になっている。地区公民館長から地域避難所への促しがあったが火災や地震、水害等を想定して利用者を搬送する手段・方法が検討されていない。	災害時の事前連絡（人員等提出）や災害に応じた準備（避難所までの時間、交通手段、各自のお薬手帳・保険証のコピー、着替え、職員手配、水等災害袋）、行政との連携方法を検討することを希望します。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重しプライバシーを十分に守った言葉かけや対応を心掛けている。	コロナ禍で狭い環境下にある利用者の尊重とプライバシーの確保を目指しポイントを絞り行っている。感染症対策、トイレや入浴介助の対応等。特にトイレ介助については親しき中にも礼儀をわきまえた行動、言葉使いを心掛けて支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を表出できるような雰囲気づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には日課に沿って過ごしていただいていくが、利用者それぞれの希望や体調によって対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理髪の訪問があり、利用している。また、起床時、入浴後や外出時のおしゃれや身だしなみについてご本人と相談しながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好に耳を傾け、季節感や彩り等も工夫している。食事の準備や片づけができる利用者には手伝ってもらうよう支援している。	感染症対策用アクリル板やホールの消毒環境下にあっても楽しい食事の雰囲気作りに努めている。専任献立作成者と管理者は利用者や職員の希望を取り入れ、食事を提供し食形態も機能別対応に努める等柔軟な食事支援に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量のチェックを行っている。咀嚼、嚥下状態に応じた食事形態の工夫、介助をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアは必ず取り組んでいる。利用者の口の中の健康が保たれるように支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターン、習慣を受け止めて、排泄チェック表を使用しながら、すべての利用者がトイレで排泄できるように支援している。	排泄パターンや生活習慣を把握し残存機能を保持できる支援に取り組んでいる。全体的に歩行に注意を要する為、トイレ誘導は二人体制にしている。排尿・排便、皮膚状況から健康管理と排泄の自立に向けた支援に努めている。2名が自立している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘を予防するために、食事内容や形態の工夫、飲み物工夫、運動を行いながら、それぞれに対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴時間、曜日は決めているが、柔軟に対応できるようにしている。	週3回の入浴を予定している。利用者の希望や健康状態を考慮し、入浴ができない場合は衣類交換、清拭、陰部洗浄等を行い、柔軟に対応している。季節によりゆず風呂やバスクリーンで楽しむ支援も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体調に合わせ、休息したり、十分な睡眠時間の確保をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の内服薬の情報については、申し送り等で情報の共有ができるようにしている。誤薬防止には2重３重のチェックで支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや食器拭き等の手伝いをしていただいたり、全利用者に役割を持ってもらえるようにしながら生活できるように支援を行っている。各種の行事や食事などにもリクエストを取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気、季節に応じて外気浴を行っている。コロナウィルス感染症の為、家族や地域の人々との外出は難しいが、施設職員と季節で外出支援を行っている。	現在は家族や地域住民との交流が難しくなった。コロナ以前は小・中・高校の生徒の登下校際の挨拶交流を何よりも楽しみにしていた。現在は天候に恵まれた日は事業所内で外気浴を、また、個人の希望に沿った外出支援を車で行っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者全員ではないが、少額でもお金を持って買い物ができるよう声掛けし、支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて電話の取次ぎをしており、手紙等もお渡ししている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度管理、季節ごとの花や飾りなどをホームの利用者みんなが見れるような場所に飾ることで、季節感を感じられる様に工夫している。	コロナ感染予防の為、事業所の衛生管理を強化している。次亜塩素系の消毒液で手すりやノブ、床を定期的に掃除し安全な暮らしを維持することに努めている。また、季節の花やカレンダーを飾り、季節感を取り入れ、居心地よく過ごせる工夫を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で一人で過ごす事もテーブル席、ソファーでテレビや利用者同士、話をして過ごす事も自由に過ごせるような配慮をおこなっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持ち込まれる方もあり、飾り付けも利用者と相談しながら行っている。	コロナ禍で家族の参加が難しくなった。現在は利用者の認知度に沿って会話を重ね部屋作りに職員が協力している。まず、安全な動線の確保、使い慣れた物やお気に入りの物の配置等、居心地よく過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の「わかること」「できること」を活かし、安全に生活できるように支援を行っている。		